

小澤 竜一郎 さん

【1. はじめに】

2次試験に無事合格することができましたので、これから受験する方々へのご参考になればと思い私の合格体験記を書かせていただきます。私のように小さい頃から本や新聞を読む習慣がなく「文章を書く」ことに苦手意識のある方、再度1次試験からの出発で心が折れかかっている方、などご参考になればと思います。また、今まさにMMCで学習されている方への励まし、今後の学習への何かしらかの「気付き」がとなれば幸いです。

【2. 受験状況】

<<受験勉強開始時>>

合格までに要する時間は、その人がそれまでにどのような知識・スキルを身に付けていたかで異なるのではないかと思います。私の場合、IT業界で仕事をしておりましたから、1次試験の「情報」以外は中小企業診断士試験に合格するための知識はほとんど持っていなかったように思います。

<<受験歴>>

H25	1次試験	合格	(某大手通信コース)
	2次筆記	不合格	(MMC直前通信コース)
H26	2次筆記	不合格	(MMC平日通学コース+直前対策通学コース)
H27	1次試験	合格	(独学)
	2次筆記	合格	(MMC直前対策通学コース)

<<H25年(新たな勉強を新鮮な気持ちで取り組めた1年目)>>

当初、学習範囲は膨大と感じる中、一方では学習内容が新鮮で、集中して1次試験の学習に取り組めた記憶があります。「情報」については最初から高得点がとれましたが、それ以外は一次公開模試などでも合格点には到達しておりませんでした。最後の追い込みでなんとか間に合いギリギリ1次試験をパスできました。このときは1次試験の準備で手一杯だったので2次試験の勉強開始は1次試験の自己採点直後から始まりました。事例1～3までの違いがよくわからなかったことや文章を書くことに苦手意識があった私はどうしようかわからない状況のとき、たまたまH24年度にMMCに通学し合格された方と知り合う機会があり、2次試験の概要を教えていただくとともにMMCを紹介していただきました。しかしすでに直前対策の通信コースしか申し込みができず、通信コースを申し込みましたが、2ヶ月半という短期間でかつ通信という一方向のコミュニケーション手段ではMMCの合格メソッドを十分に習得することはできず、今再現答案みると笑ってしまう内容の解答で当然の不合格でした。(今思えば、当時、「何が起こるかわからない、合格できたらラッキー」と思い発表を見た自分が恥ずかしいです。)

<<H26年(2次の勉強に集中した2年目)>>

MMCの合格メソッドが習得できていないことを実感しておりましたので、不合格を確認するとすぐに通学コースの申し込みを行いました。土日は家族に負担をかけてしまうため平日コースを申し込みました。通学し受講する事は毎日が非常に楽しみでした。MMCの合格メソッドの意味・活用方法が身に付いてきている実感が得られる事や毎回の授業で「読む」「考える」「書く」のいずれかの工程でのなんらかの「気付き」があったからです。具体的には、「読む」工程では、受講する中で「中小企業の理想像」のイメージのようなものが徐々にできあがり、「与件文のこの1文は解答で指摘しなければならない箇所かな？」など仮説をもって与件文を読む事できるようになったことや、「考える」工程では、与件文中の根拠となる文言と設問の対応付けの方法、因果関係の整理、「書く」工程では、20文字程度の少ない文字数や160字にもなる多い文字数への対応方法、など合格に必要な「気付き」が講義内容から得られることが毎回の楽しみとなっており、1日1つ何かを得て帰ることを目標に通学していました。これらの「気付き」をもとに自分なりの解答フローを精査、80分間の作業手順書を作成し、1年間ブラッシュアップしていきました。本試験直前の模擬試験では事例Ⅳが50点台という中で上位10%に入れるようになるほど成績が伸びましたから、事例Ⅳで集中力を維持し計算ミスを起こさなければ、と自分の中で合格への期待は高まっておりました。

●H26本試験の状況

本試験では不合格という残念な結果となってしまいました。試験では誰もが「なぜこんなことが気がつかなかったんだ」とか「こういう表現方法で書けば良かった」など「事故」を起こすと思いますが、その「事故」の数×大きさの総数で勝負は決まると思います。私は少々の小さな「事故」は仕方ないと考えておりましたが、非常に大きな事故を起こしてしまいました。それは事例Ⅱの第一問(配点25点)で、PPMの4つの分類の1つを試験中に思い出せなくなったことを起因とし、「2000年、2014年の各商品の・・・」を「その時旬な商品の・・・」と勝手に解釈を誤り、設問1、2ともに1つずつしか商品を挙げなかった上、分類番号も記載しませんでしたから、おそらく25点中、1桁台の点数しかとれていないのではないかと推測されます。また4つの分類の残り1つを記憶の奥から引っ張りだそうとムキになった結果、なんとか思い出せたのですが、気がついた時には相当な時間を費やしており、残りの問題を大慌てで書きなぐった記憶があります。時間を費やした第一問で大失点をした上、MMCで徹底的に学習した第2問のプロモーション戦略や第4問の商品戦略が疎かになり、C評価となってしまったことが合格できなかった最大の原因と考えております。

<<H27年(無理矢理学習を再開し、リラックスして臨んだ3年目)>>

不合格が確定した時点から3年目がスタートするわけですが、3年目は順調に学習スタートすることはできませんでした。初めて勉強を開始した時とは違い、1次試験の試験範囲は把握できておりましたから、再度記憶をよみがえらせることが、とてつもないことのように思えたからです。また2年目の失敗が尾を引き、正直心が折れかかっておりましたから1月以降1次のテキストを開くも、モチベーションが上がらず継続して勉強すること

ができませんでした。本格的に再度挑戦しようという気持ちになったのはGW明けの1次試験の申し込みの時期です。昨年の通学時に中居先生に「1次試験の保険受験」について相談したときに「1度1次試験の合格を経験したのであれば、再度合格することはそれほど難しい事ではない」とおっしゃっていた事を思い出しました。ここで申し込みをしなければ一生再挑戦する気持ちにはならなくなるかもしれないと思い、そのアドバイスに乗っかってみようという気持ちになったからです。しかし、1次試験まで3ヶ月程度となっておりましたから、1次試験は科目合格狙いで、暗記科目である「法務」と「中小」にしぼることにしました。そう考える事によって、気持ちも楽になり3ヶ月間は集中して勉強に打ち込む事ができました。ただ、わずかな可能性を期待して7月には各受験機関の1次公開模試の自宅受験を4社ほど申し込み、提出はしませんでした。自己学習しました。結果、自分でも驚いたのですが1次試験の本試験では初回時より大幅に高い得点で通過することができました。この要因を分析すると、①集中して取り組んだ「法務」「中小」の2科目をきちんと得点できた、②「財務」「企業」「運営」は2次試験と連動性が高く、MMCで2次試験の勉強が1次の知識体系の整理や関連性が定着していたため時間をかけず効率的に対応できた、③「経済」「財務」易化、「情報」難化で、私には都合のよい傾向だった、ということが挙げられます。同じような境遇の方は、いらっしゃるとは思います。2次試験の準備をしっかりと行ったのに、再度1次試験からやり直しというのは精神的な負担が大きいとは思いますが、初学とは異なり効率的に学習できる事は間違いないですから諦めずに挑戦してほしいと思います。

1年目同様に、2次試験の準備は1次試験後から開始です。ところが昨年2次試験の準備はしっかりと行いましたし、昨年と一緒に果たして合格できるのか？今年では2ヶ月半で何を準備しようか？とも考えましたが、昨年合格圏内にいたはず、ということを感じて以下のように取り組む姿勢だけ気をつけてリラックスして学習することにしました。

・「1点でも多く点を取ろう」という考えは捨て、「狙って62点をとる」(→こちらはMMCの過去の合格者の方や講師の方からも言われていることなのですが・・・)

自分はこのくらいリラックスして臨んだ方が大事故のリスクを軽減でき、2次試験の勉強は10ヶ月ブランクがありましたから62点まではがんばるけれど、それ以上はとれなくても仕方ないという割り切りができてよいと考え、日々の勉強は以下を留意しました。

①事例Ⅰ～Ⅲは、昨年確立した「解答プロセス」を実行できるトレーニング

→昨年の本試験から1次試験完了まで事例問題を解いていませんでしたので、直前答練の問題で80分の感覚を取り戻すトレーニング。

②事例Ⅳは、昨年から蓄積したMMCの答練や模試の問題を寝る前の脳が疲れきった状態で1日1題以上解きました。

→講師の方々に、計算問題は「脳の筋トレ」と言われておりました

③62点狙いを意識する

→点数を欲張らない、取りかかる順番や難しい設問での解答要素数の割り切り(3つ要求してるのだからと感じても無理せず2つに抑えるなど)

つまり③以外は基本去年と同じで、③は問題に取り組む上での意識的な工夫を追加した

けです。ですから、答練の再提出も行いませんでしたし、答練や模擬試験の成績は昨年より悪い事の方が多かったですが気にはしませんでした。この意識で良かった点は、昨年までは80分みっちり使って解答するケースが多かったですが、今年の答練や本試験でも気持ちの余裕からかまず時間的な余裕が生まれ、最初に全問ざっくりと解答の方向性を決め（解答要素が少なくても知識が不足しても気にしない）、設問に緩急をつけ80分を有効に活用できるようになったことです。過去問も再度取り組もうともしましたが、実際に解答まで記述することはせず手順の確認だけ行いました。過去2～3年分ほどを1回転ランダムに選んで、私の解答手順書で記述前までの手順（およそ1事例40分で実施）です。（ちなみに昨年は過去7～8年分を2～3回転くらい実施しました。）

●H27 本試験の状況

[事例Ⅰ]

第1問～第3問まで比較的取り組みにくい問題と感じました。MMCでは、「100文字の回答であれば解答要素3つ挙げて差別化を図る」と言われますが、第1問～5問まですべてを3つ挙げる事をしませんでした。取り組みやすい設問から手を付け、解答要素が2つ挙げたら次の設問。結果3つ挙げた設問は2問であとの3問は解答要素2つとなりました。「62点狙い」の戦略がタイムマネジメントをきちんと行い無難に対応できたのではないかと思います。

[事例Ⅱ]

商店街の問題で一瞬焦りましたが、第2問以降はMMCで学習した通りの対応で大丈夫と感じました。第1問目の設問1はどう対処するか悩みました。設問1を「因」に設問2、3を「果」とするのだろうと考えましたが、設問1でターゲットを複数要素を挙げると設問2、3のマス数が少ないため書ききれない。では設問1はなぜ100文字も必要なのだろう。そこでターゲットは1つに絞り、それをターゲットに決めた理由をきちんと記述し、100字埋めようと決めました。

[事例Ⅲ]

C社で発生している問題とその改善策はMMCのキーワードマトリックスにあるいつものやつだな、と概ね読み取れた感じはありました。ただ、設問の対応付けに悩みました。しかし、ここは他の受験生も悩むんじゃないか、と考え設問の割当に時間を割く事はやめ早々にどの設問で何の改善するかを決め、他の設問と記述内容の精査に時間を取ることができました。

[事例Ⅳ]

設問をすべて読み、MMCで財務の計算は散々やらされましたから「この問題なら80点以上とることができる」と感じました。しかし、今年の戦略は「狙って62点をとりに行く」ですから、80点を狙った結果、計算ミスで散在させることは避けようと思いました。まず配点を確認して、第1問（経営比率分析）と第2問（CVP分析）で62点。これだけで目的達成できるのだと思いました。追加で第4問は記述でしたので、結果的に第3問やらなくても計算ミスを起こさなければ62点確保はできると考え、第3問は後回しにしました。第1問はいつもの通り対応し、第2問は時間をかけて、問題文を2、3回読み、検算もしっかり行い税率や小数点処理がいつもと違う事もきちんと対応し、第1、2、4問でしっかり62点以

上は確保できたのではないかと思います。

もちろん再現答案を作成する中で「この解答要素も入れればよかった」「解答要素誤った」「表現方法が抽象的すぎた」など細かい後悔は各事例あり、今年は絶対合格できるという自信はありませんでしたが、時間管理も自分の解答手順とおり適切に行い、無難に安全運転できたことが合格につながったと思っております。100%出し切ろうとしていたら昨年のような大事故を起こしていたかもしれない、と自分に言い聞かせ合格発表を待ちました。

長々と記載させていただきましたが、何が言いたいかと言いますと、MMCでまじめに1年間学習し、講師の方々からの試験の戦い方のアドバイスを素直に受け入れ、あとは当日7割程度の力が出せる状況を作り上げられれば合格はすぐ目の前にあると言っても過言ではないということです。

【3. 2次試験勉強方法】

①MMCの合格メソッドを自分が試験本番で使える武器にする

1. 具体的には答練の模範解答を徹底分析

答練や模試の全設問に対し、どういう切り口で、どういった因果関係で解答が構成されているかを分析し表に整理しました。(解答のどの箇所が「果=いいたいこと(キーワード)」で「因=その根拠」)

2. キーワードマトリックスの作成

MMCで自分で作成するようによわれます。それほど大変なものではありません。各事例A4用紙1枚ずつ作成しました。こちらは夏くらいまでにはブラッシュアップを含め完成し、夏以降は使うトレーニングです。(夏以降はほぼ頭に入っていたため、見る機会もほとんどありませんでした。逆にそのくらいのボリュームの内容です。)

②解答プロセスの作成

事例Ⅰ～Ⅲまで共通で、80分間という納期に対し、60点以上の品質の解答用紙を作成するための手順書の作成です。こちらは私はH26年度、27年度の試験直前まで80分間でやる作業をPDCAを繰り返し、微修正しました。

③①、②の精度向上

H26年度は答案の再提出を必ず行い、わからない箇所や自分の思考・解答プロセスの誤りについては講師の方々に質問・相談し①、②の精度を高めました。

④財務計算問題

MMCでいただいた計算問題や答練、模擬試験の計算問題を繰り返し繰り返し、できた問題とできない問題の記録、できなかった問題はまちがった原因を明確にし、それを集約し対策を立て、自分の計算問題取り組む際の手順に組み込みました。

(例えば NPV の問題で計算をたくさん間違えた結果、白紙の右上に減価償却費や償却損益

結果等の設備投資関連情報、上部に時間軸、時間軸のどの時点に割り引くかマーク、時間軸の下に簡易 PL→CF の計算、などを完全手順化)

H26 年度は時間をかけて徹底的に上記を行いました。特に夏までの前半期には、上記の①、②を中心に、夏以降の後半期はそれまでの答練や過去問を使用し②、③を中心に行いました。勉強時間は平日は朝 5 時から 7 時までの 2 時間行っておりました。夜寝る前は④の財務計算問題を 1 日 1 題以上取り組みました。これは「事例Ⅳは試験当日は夕方の時間帯で 3 事例を解いた後の最も疲労がたまった状態で行わなければならない」と中居先生から教えられていたので、仕事が終わって帰宅し寝る前の 1 日で疲れがたまった状態でいかにミスなく計算問題を解けるか、という考えに基づくものです。

休日はまとまった時間が取れますから、答練の再答案作成や過去問の事例問題の直し直しと自分の解答を読み直し、「読む」「考える」「書く」の工程に分類し、悪かった点とその改善点の整理等に時間を費やしました。H27 年度は H26 年度の失敗から、「いかにして本試験にリラックスして臨むか」ということを重視したので、夜の事例Ⅳ計算は脳の筋トレとして 2 ヶ月半ほど毎日継続しましたが、それ以外は前述したとおり昨年の振り返りを中心に気の向くままの学習でした。

【4. MMCの良かった点】

以下が、私がMMCをおすすめする理由となります。

① 合格メソッドの存在

MCサークル、キーワードマトリックス等合格に必要なメソッドが身につくことです。MCサークルは解答を考える際の、いわゆる「引き出し」に相当し、多面的に解答する際の切り口にもなります。そのため私にとって「解答内容に困ったら、MCサークル」と思えるほど安心感のあるメソッドとなりました。キーワードマトリックスはいわゆる「仮説思考」で設問を捉え、因果関係を意識した解答を作成できるようになりました。

② シンプルな解答構成

私は元々、本や新聞を読む習慣はありませんでしたし、ましてや 100 文字程度の文章を書いて相手(採点者)に考えを伝えることは 2 次試験の勉強を開始した当初は非常に大変なことだと感じました。しかしMMCが目指す解答というのは箇条書きベースで①～、②～、③～と構成されるため初めて模範解答を見た時に、「端的でわかりやすい」、「自分でも箇条書きであればできるのでは」と感じ、「普通の受験生が 80 分間で作成できる現実的でシンプルな解答作成技術」を身につけることができました。

③ 双方向コミュニケーション

私は 1 年間平日通学でしたが、非常に良かったと思っております。通学は講師の方との双方向コミュニケーションであり、講義中にさされることがあります。私が通学した初期の頃、講義の中で前田先生に「経営指標において、安全性、収益性、活動性で最も重要なものは何か？」と質問され、当時は分けもわからず「赤字はまずいので収益性です」と解

答しました。先生に「正解は安全性です。小澤さんはみなさんの前で間違っただから、このことは2度と間違えないでしょう。」他の受講生がいる中で確かに恥ずかしい気持ちでしたし、他の受講生はわかっていたのかな？とか不安にもなりましたが、前田先生のおっしゃっていた通り、2年経った今でも安全性が重要な理由も含め、その時の記憶が鮮明に残っています。このように、日々の講座での講師の方々とのコミュニケーションが脳を刺激し、MMCの合格メソッドを早期に吸収できたのではないかと思います。またわからないことの質問や勉強方法や試験に対する相談などにも乗っていただけたことはモチベーションを維持する上で重要でしたし、講義中のちょっとした雑談的な話題、例えば「〇〇先生の受験時代の失敗談」や「試験に臨むメンタル的な内容」などは、今となっては受講生の合格の可能性を1%でも向上させていただけるための貴重な時間だったのだと感じております。

【5. 最後に】

3年かかりましたが私は2年目のMMCへの通学で合格するために必要なことはMMCですべて学習させていただけたと感じております。諦めずに挑戦し、12/11筆記試験の発表で自分の番号を確認したときは、正直ほっとしました。前田先生や中居先生を始め、いつも熱心な添削とアドバイスをしてくださった講師の方々には大変感謝しております。また当初私にMMCを紹介してくださった知人の方、3年間支えてくれた家族、2回目の失敗で心が折れそうになったときに励ましてくれた昨年合格しMMCを無事卒業された同志の方(昨年の合格体験記にある方です)に感謝いたします。本当にありがとうございました。